

第4回 白馬村計画審議会 会議録（要旨）			
日 時	令和8年1月29日(水) 13:30~15:30		
場 所	白馬村保健福祉ふれあいセンター 2階 学習室		
出席者数	22名		
区分	団体・役職	氏名	出席
村議会議員	白馬村議会議長	太田 伸子	○
村議会議員	白馬村議会副議長	丸山 和之	○
村教育委員会委員	白馬村教育委員会	松沢 亨	○
村教育委員会委員	白馬村教育委員会	服部 知子	○
村農業委員会委員	白馬村農業委員会	松沢 正猛	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村区長会	太田 岳人	○
公共的団体の役員及び職員	白馬商工会	山本 孝男	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村消防団	星河 隆志	-
公共的団体の役員及び職員	白馬村シニアクラブ	徳竹 禎三	-
公共的団体の役員及び職員	白馬村民生児童委員協議会	太田 文敏	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村身体障害者福祉協会	飯島 忠一	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村スポーツ協会	横山 秋一	-
公共的団体の役員及び職員	白馬村スキークラブ	横川 和彦	○
公共的団体の役員及び職員	しろうま女性会	田口 令子	-
公共的団体の役員及び職員	白馬村社会教育委員	富山 正明	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村都市計画審議会	宮尾 英明	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村観光地経営会議	丸山 徹也	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村4校PTA連絡協議会	今西 ひさ美	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村ボランティア連絡協議会	西浦 知子	○
公共的団体の役員及び職員	白馬村観光局	福島 洋次郎	-
学識経験を有する者	特別養護老人ホーム白嶺所長	岡田 記子	○
学識経験を有する者	大北農業協同組合白馬支所長	市河 明広	○
学識経験を有する者	白馬村金融団幹事	白田 友和	○
学識経験を有する者	白馬村建設業組合長	太田 具英	-
学識経験を有する者	白馬村索道事業者協議会会長	星野 裕二	-
学識経験を有する者	Hakuba International Business Association	イアン・ミラー	-
学識経験を有する者	白馬EVクラブ	渡辺 俊介	○
公募による村民	公募委員	津滝 俊幸	○
公募による村民	公募委員	松橋 舞	○
公募による村民	公募委員	高田 明利沙	○
事務局	白馬村役場 総務課長	田中 克俊	○
事務局	白馬村役場 GX統括監	白濱 雄太	-
事務局	白馬村役場 総務課 企画政策係長	渡邊 宏太	○
事務局	白馬村役場 総務課 情報まちづくり係長	田中 元気	○
事務局	白馬村役場 総務課 企画政策係	小林 啓	○

1. 開 会

【事務局 田中総務課長】

開会を宣言した。(進行:事務局 田中総務課長)

2. あいさつ

【松沢会長】

ご多忙の中、第 4 回計画審議会にご出席いただき感謝申し上げます。

前回の審議会で基本構想の案を取りまとめ、パブリックコメントを経て 12 月の議会で可決された。

今回は基本構想を踏まえて、前期 5 年間の基本計画について審議することが議題となっている。

一堂に会して議論するのはこれで最後になると思うが、奇譚のない意見を出していただくとともに、円滑な進行にご協力いただきたい。

3. 報告事項 (進行:松沢会長)

(1)第 6 時総合計画基本構想について

【事務局 渡邊企画政策係長】

会長の挨拶にもあったとおり、前回の審議会の後、村民等からの意見募集を行い、3 名から 7 件のご意見をお寄せいただいた。提出された意見については、既に各委員にお送りしているため、個別の説明は省略するが、言葉の定義等に関するものや、静かで穏やかな生活環境が脅かされているためそれを守ることを掲げてほしいという意見などがあつた。同様の意見は地区懇談会等でも出されていることから、基本計画や具体的な施策で検討していきたい。

提出された意見による内容の修正は特に行っておらず、審議会から答申いただいた内容で 12 月議会上程し、可決された。

【松沢会長】

事務局の説明に対して、質問や意見はあるか。

<質問・意見なし>

【松沢会長】

特にないようであるため、報告事項を閉じ、協議事項に進む。

4. 協議事項（進行：松沢会長）

(1)人口ビジョン(案)＜将来人口推計＞について

【松沢会長】

事務局から説明をお願いする。

【事務局 渡邊企画政策係長】

＜資料1について説明した＞

人口ビジョンについては、第2回の審議会で基礎的な部分と国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」)の推計値について説明しているため、要点のみ説明する。

将来の人口推計について、5年前の時点では2060年に5,000人を割り込むと推計されていたが、現在の2060年の推計値は5,552人となっており、この5年間の人口異動等の状況から減少が抑制される見込みとなっている。

10ページ目に村の独自施策による上乗せしたグラフを掲載している。

グレーの線が社人研の推計で、青い線は子育て世代の転入を促す施策を実施し、25～40歳／0歳～15歳について年間12人の増加を見込んだものである。

赤い線は、青い線の戦略的上乗せによる人口移動を倍の年間24人に増やし、さらに出生率を2020年の1.3から5年毎に0.1ずつ上昇させ、2050年に長野県民希望出生率1.8を実現し、2065年には人口置換水準の2.07を実現した場合の推移である。

赤い線の状態が達成できれば、長期的に7,000人程度で安定する見込みである。現在の人口の構造や異動を基に算出しているため、出生率の上昇や住宅の確保等により上振れする可能性もあるが、自然減・社会減が想定よりも進めば下振れする可能性もある。

出生率を上昇させるのは難しいが、国の人口ビジョンでは2030年までに1.8程度、2040年までに2.07程度を目標としており、長野県の人口ビジョンでは2040年頃に1.6、2050年頃に1.8、2060年までに2.07を目標としている。それらも踏まえた上で、現実的かつ挑戦的な水準として、第6次総合計画の人口ビジョンでは赤い線を目標に設定して、各種施策を実行していきたい。

11ページには、各パターンの年齢区分別の人口推移を記載している。戦略的な上乗せをしない場合、年少人口が10年ごとに100人ずつ減少していくと推計されるが、戦略的な上乗せを加えたパターン3では、2035年頃から年少人口の増加が見込まれ、現状維持または今より少し多いくらいの水準を保つことができる。

12ページには「人口の将来展望と対策の方針」として、2070年に定住人口7,000人規模で人口を定常化する」という目標を掲げている。白馬村は、国内外からの転入者が多いが、現在は住宅が不足している状況にある。目標を実現するための具体的な施策として、官民連携による住宅整備や、教育・子育て環境の充実など子育て世代が住みたくするような施策を展開し、持続可能な地域を目指したいと考える。

審議会やワークショップでは、現状の人口を維持するもしくは増加を目指すという意見が多かった一方で、人口が7,000人前後であった1980年前後も村民は幸せに暮らしていたのではないかと声もあった。時代が異なる部分もあるが、技術の発展等もあり、7,000人でも幸せに住み続けられるまちになると考え、人口ビジョンの目標とした。

【松沢会長】

事務局から説明があった。意見や質問があればお聴きしたい。

<質問・意見なし>

【松沢会長】

特にないようであるため、次に進む。

(2)前期基本計画(案)について

【松沢会長】

内容が多岐にわたり、分量も多いことから、4つの基本目標ごとに区切って説明を受け質疑の時間を設ける形で進めたい。

【事務局 渡邊企画政策係長】

総合計画は、自治体の最上位計画であり、地方版総合戦略を含めることとしているため、分野横断的・網羅的にならざるを得ないことはご理解いただきたい。一方で、細かい部分に目を向けると、この分量でも書ききれないことがたくさんあり、各個別計画で記載していることも多いが、何を拾い上げて総合計画に載せるか、施策の方向性やKPIなども含めてご意見をいただけるとありがたい。

目次の次のページに「共通重要指標」として5つ掲載している。これらは各基本目標の施策を横断的に進めることで数値を高めていくことを目指している。定住人口は人口ビジョンに合わせており、それ以外の4つは村民アンケートの結果を現状値としている。5年後に同じ質問でアンケートを実施し、評価したい。

また、各基本目標の表紙にも「重要指標」を記載している。各施策のページにもそれぞれ指標を掲載しているが、基本目標ごとに重要な指標と位置付け、アンケートによる主観的な数値と、実数等の客観的な数値を、それぞれ含めるように設定している。

各ページの詳細の施策や指標を説明すると時間がかかってしまうため、それぞれお気付きの点や質問などがあればご意見いただき、それに回答する形とさせていただきます。

【松沢会長】

各委員から意見や質問はあるか。

【富山会長】

14 ページに草刈りのことが書かれていて、関係機関と連携して取り組むことに「草刈機の購入補助」も記載しておくよいのではないか。後の「しごと」のところには出てくるが、ここにも書いておくと村民にわかりやすいと思う。

【事務局 渡邊企画政策係長】

今回の計画では、各施策について、【現状と課題】、【課題に対して目指す方向性】、【主な事業】、【施策指標

(KPI)】、【村民・事業者との協働の方針】をそれぞれ記載するフォーマットとしている。分野や内容が重複する部分も出てきてしまい、全てを記載すると文字数が多くなってしまうため、その辺りのバランスは担当課とも協議して検討したい。

【事務局 田中総務課長】

ゼロカーボンへの取り組みの一つとして位置付け、9 ページの「再生可能エネルギーへの転換」に「充電式草刈機等の普及」という事業を記載している。重複して検討するかどうかは内部で検討させてほしい。

【渡辺委員】

施策指標(KPI)について、単年で書かれているものと累計(積上)で書かれているものがあるが、どういった違いがあるか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

指標によっては、単年にするとどうしてもばらつきが出てしまうものもあり、特定の年度だけを切り取って評価することが適切ではない場合には累計を用い、そういったものではなく、徐々に増えていくものや減らしていくようなものについては、単年度の数値を指標としている。基本的には担当課の意向を尊重しており、個別計画の目標値に準じているものもあるため、ご理解いただきたい。

【渡辺委員】

9 ページの施策指標「公用車の電気自動車割合」について、第 5 次総合計画は台数であったが、割合(%)にした理由はなぜか。

【事務局 田中情報まちづくり係長】

コロナ禍を経てリモート会議等が増えたこともあり、公用車の稼働率が低下傾向にある。まずは公用車の台数を最適化して必要な台数とした上で、その中で電気自動車の割合を高めていくことを目指したい。

【松沢会長】

特にないようであるため、次の「ひと」に進む。

【事務局 渡邊企画政策係長】

基本目標「ひと」では、出生数等を重要指標に掲げている。

具体的な施策としては、基本理念にも掲げている「共生」や交流に関する分野、子育て支援、障がい者福祉、高齢者福祉、健康と医療、スポーツ、教育、文化等の事業を記載している。

【松沢会長】

各委員から意見や質問はあるか。

【西浦委員】

多文化共生や国際交流といった部分について、総務課が兼務で担当している体制だと思うが、外国人住民

の割合が高い地域であるため、総務課の中に専門の係を設置することはできないか。

【事務局 田中総務課長】

現在の職務分担では、総務課の情報まちづくり係の中に多文化共生に関する業務を位置付けている。多文化共生サイトの管理や総合案内への通訳職員の配置、英語版広報紙の発行等を行っているが、地域の状況を考えると体制や事業が十分とは言えない状況である。全体の体制もあるので、専門の係を設置できるかどうかはわからないが、第6次総合計画には事業としてしっかり位置付けて施策を推進していきたい。

【西浦委員】

ボランティア連絡協議会に子どもカフェを運営している方がいるが、主催されている皆さんの年齢もあり、できる範囲で運営されている状況である。今後継続して運営できるのか、やめることになった際にはどうなるのか不安に感じている。

【事務局 渡邊企画政策係長】

子ども食堂について、白馬村では「こどもカフェ」という名称で運営されていて、主催者は「自分たちができる範囲で続けていきたい」という想いで運営していると理解している。引き継ぐ人が現れると良いと思うが、それぞれ想いや事情があるため、新規で取り組む方が出てくる可能性もある。

基本計画の中では、21ページの「地域ぐるみの子育てと共生」の中で、「子ども食堂・多世代交流拠点の支援」として、「子どもの居場所づくりを推進するため、子ども食堂を実施する民間団体等への経済的支援や、情報発信への協力を行います」という形で触れている。具体的な支援については、運営状況を見ながら担当課で検討することとしたい。

【津滝委員】

30ページの「安全・安心な学習環境づくり」で施策指標に白馬産食材・長野県産食材の使用率が設定されているが、品種・金額・重量など何を基準とした割合なのか。

【事務局 田中総務課長】

金額ではなく品数か重量かと思うが、確認する。(確認の結果、重量基準であった)

【津滝委員】

その辺りが伝わりやすいように工夫してほしい。

【事務局 田中総務課長】

県教委への報告項目があり、その数値を使用していると思われるが、説明を加えたい。お米などを中心に多くの白馬産食材を使用して高い率を保っていることから、しっかり情報発信していきたい。

【今西委員】

30ページにスクールバスの記述があるが、既に運行しているものであるため、乗降場所の安全確保や運行期間の延長など、もう少し踏み込んだ形で記載できないか。

また、北小のジャンプ台、南小の裏山ゲレンデなどは、白馬村の財産であると思うので、基本計画の中に記載した方がいいのではないかと。

【事務局 渡邊企画政策係長】

教育課に伝え、記載内容について検討する。

【富山委員】

29 ページの部活動の地域展開について、目標値を 100%としているが、実現可能性や必要性はどうか。

32 ページで公民館講座の開催回数や受講者数を現状維持としているが、増やす方向を目指さなくていいのか。

33 ページの文化財スタンプラリーについて、特に具体的な施策の記述が無いが、目標が 10 倍になっている。何か理由や意図はあるのか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

部活動の地域展開については、定例教育委員会等で議論されていることがあれば会長から共有いただきたい。

【松沢会長】

種目や分野によっては指導者の確保や育成が課題となっているが、教職員の働き方改革の一環として全国的に検討されているものであり、白馬村も取り組んでいかなければならない状況である。

【事務局 渡邊企画政策係長】

他の分野の指標も含めて、目標を現状維持としているものもいくつかあるが、人口が減少していく見込みの中で、現状維持でも十分というものの中にはある。公民館講座について、「現状維持でいいのか」と言われると、まだ伸び代もあると思われ、受講者数の増加が人のつながりや健康・生きがいにもつながっていくものであるため、増やしていくことが望ましいと考える。一方で運営面では、限られた人員でどこまでできるかといった体制の課題や、回数や受講者の数だけではなく学びの質や満足度も大切にすることなども考える必要がある。持ち帰り担当課と協議したい。

【事務局 田中情報まちづくり係長】

今年度は担当者が替わったこともあり、周知等もあまりできていない中での実績の人数であるが、学校教育や社会教育なども関連づけて取り組むことで一定の参加者増は見込めるものとする。具体的な施策については担当課に確認する。

【富山委員】

目標の数値だけでなく、どのように参加者を増やすかという部分も記載いただけるといいと思う。

部活動について、教職員の負担になるものと、生徒の自主性が尊重されているものがあると思うが、すべてを地域で受け入れる必要があるのかという疑問を感じたため質問させてもらった。

【津滝委員】

31 ページの「白馬高校の魅力づくり」の指標について、地元中学校からの入学者割合を現状 30%で目標値 50%としているが、子どもの数が減少している中で、50%を確保するというのは厳しい数字だと感じる。高校再編基準や高校無償化なども踏まえて、ただ人数を集めればよいという話ではなく、白馬高校を今後も存続させられるのか、現状とは違う観点で考えないと難しいのではないかと。

【事務局 渡邊企画政策係長】

白馬高校の支援については、「地元中学校からの入学者割合 50%」が再編基準の一つであったこともあり、「白馬高校魅力化ビジョン」の中でも目標に掲げている。簡単な数字ではないが、中高連携の成果も生まれつつあり、地元からの進学者も増加傾向にある。地域に魅力ある高校が存在することは教育環境の観点からも重要であり、目標達成に向けて各施策を推進していく必要がある。

【西浦委員】

現在は普通科と国際観光科であるが、科やコース・選択科目等を新たに作るのには難しいのか。白馬高校に行きたいと思えるカリキュラム等があればいいと思う。

【事務局 渡邊企画政策係長】

学科の設置については、県教委が判断するものであり、難易度は高いが、国際観光科を新設した経緯もあるように、できないものではない。一方で、国際観光科を設置して 10 年程になるが、定員を超える志願者があるなど、実践的な英語教育等を求める生徒は一定数存在すると感じている。普通科の魅力づくりも必要と考えるが、具体的な内容については県教委や教職員等とも協議・検討が必要となる。探求や地域学習等も積極的に行っているが、中学校との連携も含めてさらに充実していけるよう、担当課に意見を伝えたい。

【服部委員】

33 ページの「文化と芸術の創造と発信」について、指標に「主催・共催するコンサート等の入場者数」があるが、人数ではなく充足率で記載できないか。ウイングのホールは定員が 500 人であるが、現状値は 800 人となっていて、来場者が少なく出演者に申し訳なく思う公演も見受けられる。周知の範囲を広げるなど集客のためにできることはまだあると思う。KPI を人数ではなく割合(%)にして、できるだけ席を埋めるよう努力いただきたい。

【事務局 渡邊企画政策係長】

過去に担当していた経緯もあるが、価値観や生活様式の多様化による余暇の過ごし方の変化や、ネットコンテンツの充実等もあり、一堂に会するイベントの集客の難しさを感じている。同じ情報発信をしても、内容によっては満席になるものもあるため、周知はそれなりにできているとは思いますが、地域外からの誘客などはまだできる部分があると思う。担当課に伝え、検討したい。

【高田委員】

人口ビジョンでも子育て世代を支援するという話があり、未就学児や小中学校に関する事業は記載されて

いるが、白馬高校以外の高校進学者への支援のようなものは特に記載がない。遠方への通学の負担が大きいという意見もあったかと思うが、白馬高校への進学を促すために他の高校に進学した生徒や保護者への支援は考えていないのか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

他市町村では通学費の補助等もしているが、白馬高校の魅力づくりとのバランスを考えると難しい面もあるため、現状は特に支援等をしていない。白馬高校を地元の中学生在が行きたい学校にしていく取組は引き続き推進するが、すべての生徒が白馬高校を志願するわけではなく、一人ひとりの自己実現のために多様な進路を支援することで、より良い教育環境を構築し、定住地として選ばれることにもつながる。限られた予算をどう配分するかということもあり、計画に記載できるかはわからないが、今後の施策として検討したい。

【西浦委員】

高校生の通学について、電車の本数を増やすことなどは難しいか。

【事務局 田中総務課長】

4校PTAに白馬高校も含まれ、電車の運行時刻に関する要望をJRに伝え、改善してもらった経緯もある。状況に応じて、同様に要望していくことは可能である。

【松沢会長】

他に質疑や意見はあるか。

<質疑・意見なし>

【松沢会長】

特にないようであるため、次の「まち」に進む。

【事務局 渡邊企画政策係長】

「しぜん」も「ひと」も大切であるが、地域コミュニティやインフラ整備など「まち」も同様に重要な項目である。重要指標として、行政区加入率やアンケートにおける帰属意識や地域活動への参加意向、デマンドタクシー「ふれAI号」の利用者数を設定している。

冬季に労働目的で転入する外国人が年々増加し、9,500人を超え過去最高の人口となっているが、地域にとって重要なのは定住人口である。国勢調査の基準日である10月1日前後が最も人口が少なくなる時期で、それを「定住人口」と位置付け、増やしていく施策を展開していきたい。子育て世代やエッセンシャルワーカー（生活必須職従事者）の定住を促進するための制度創設や住まいの確保に取り組むとともに、白馬ファンなど関係人口の創出と関係強化に取り組み、移住・定住につなげていくことを記載している。

また、住民自治と行政区支援、住民団体や地域活動の支援、消防・防災、治山・治水、住宅の安全性向上、生活環境、交通安全、道路の維持・整備、上下水道、情報インフラ、公共交通、景観・開発、行政分野として広報・デジタル化・地籍調査・財政、最後に企業や大学との連携などについて記載している。

【松沢会長】

各委員から意見や質問はあるか。

【富山委員】

37 ページの住まいの確保について、空き家バンクは既に運用が始まっているが、利用が伸びていない状況と聞いている。待ちの姿勢ではなく、村から主体的に動くような取り組みも必要ではないか。

54 ページの景観と開発について、村民アンケートなどでも関心の高い分野であるが、建築確認が民間でもできてしまうためすべて役場に提出されるわけではないと建設課で聞いた。開発審議会等が開かれるような大規模な案件は景観や周辺に配慮されたものとなっていると思うが、そこまでの規模ではないものについても村で調整できるような仕組みは独自でつくれるか。

【事務局 田中情報まちづくり係長】

空き家バンクについて、固定資産税の納税通知書にチラシを同封して周知したところ、相談件数は増えたものの、空き家バンクへの登録にはつながらなかった。行政が運用する意義なども伝えながら空き家所有者の掘り起こしをしていきたい。

【事務局 渡邊企画政策係長】

建築確認と開発の手続きについてはご意見のとおりですが、村では令和 4 年に景観条例を制定し、外観が変わる場合は基本的に届出が必要となる。知らずに施工してしまったという案件もあるため、引き続き周知・徹底等は必要だと考える。

【津滝委員】

39 ページの行政区加入率について、転入の際に案内するという事になっているが、同じことをしているだけでは加入率は向上しない。経済的な負担や役員の負担など、課題に対する策をしっかりと記載して取り組んでほしい。

53 ページの公共交通について、利用者を増やすことも大切であるが、車両台数や運転手の確保も重要であるため、その辺りも具体的な記載を検討してほしい。

59 ページの「安定的な財政運営」について、宿泊税や登山協力金以外の財源も検討するとの記載があるが、具体的に何か想定しているものはあるか。また、ふるさと納税については制度が恒久にあるものと思わない方がいいのではないか。多額の寄附を集められる返礼品があるわけでもないため、ふるさと納税に頼らず自力で財源を求めていくことも必要と考える。

【事務局 渡邊企画政策係長】

行政区の加入率について、具体策を書くことが望ましいことは理解しているが、まだ施策を検討している段階である。この 2 年間で多くの地区と懇談会を重ねていく中で、行政として考えて変えていくべきことも、行政区の中で考えて変えていくべきこともあると感じている。役員の数や会議の回数を減らすなど人的な負担軽減は既に取り組んでいるが、引き続き区長等と意見交換しながら効果的な施策を考え実行していきたい。

公共交通については、担当課に確認するが、台数を増やすことも含めて最終的に利用者数を指標に設定していると思われる。

宿泊税・登山協力金以外の財源について、これまでの会議では事業者負担金検討部会で検討しているが、それ以外にも、訪日観光客からの寄附をいただく仕組みなども含めて、幅広く検討したい。ふるさと納税については上限が設けられるなど市場が縮小していく可能性もあるが、制度がある限りは多くの寄附をいただき、財源として活用するだけでなく寄附者との関係性も大切にしながら、寄附を増やせるよう取り組んでいきたい。

【津滝委員】

近年は五竜や 47 などの駐車場が冬季は夜間閉鎖している。除雪の妨げになることやトラブルを回避することが目的であるが、追い出された車がサンサンパーク等の駐車場で車泊している。県と村で宿泊税を導入すると言っておきながら、自分たちで管理する敷地に宿泊する車両からは税を徴収できないという矛盾が生じる。税の公平も含めて、財源としても検討してほしい。

【事務局 田中総務課長】

観光財源については、駐車場に対する課税等も検討してきたが、用途を考えると負担金は受益に対するものにしか使えないという限定性があるため、法定外目的税が望ましいと考える。海外では事例があるが国内では事例がないようなものも専門家を含めて研究しているが、現状では具体的なところまで書くのは難しい。検討のテーブルには様々なものが挙がっているということでご理解いただきたい。

【太田文敏委員】

行政区の課題は半世紀近く続いている。半数近くが加入していない地区もある。自治会としての区割りと行政の下部組織としての区分けについて、ぜひ前期 5 年間の計画の中で考えて実行していただきたい。行政区はコミュニティにも密接に関係するものでもあり、極めて重要な施策である。

【事務局 渡邊企画政策係長】

行政区のあり方について抜本的に考える時期を迎えていると感じている。「目指す方向性」の最後にも記載しているとおり、集落単位よりも広域的に地域づくりを担う組織として、国では「地域運営組織」の設立を後押ししている。各地区で人口規模や歴史や課題も異なるため、何か一つをやればすべてが解決するということはないが、新たな制度や他の地域の事例なども研究しながらあるべき姿を検討していきたい。

【西浦委員】

区に入らない移住者の話を聞くと、区費が高い、作業や役員が負担という声が多いように感じる。移住して 1～2 年は区費を無料にしたり、作業等の参加も緩めに設定して、まずは関わるきっかけをつくり、3～4 年目は半額にするなど、最初のハードルを下げた方が入りやすくなるのではないかな。

区の活動に農業系の交付金を活用して参加者に謝金等を払っているところもあるため、そういった取り組みを広げていくことも必要だと思う。

【事務局 渡邊企画政策係長】

行政区の運営については、各地区のルールや意向等もあるため、村で一律に制度を創設するのは難しいと思うが、区長会議等で提案したり情報共有して、モデル事業として実施するなど何か変化を生み出すきっかけ

はつくっていきたい。

農業系の交付金については、既に活用している地区も多いが、さらに広げていく可能性について農政課に確認する。

【松沢会長】

他に質疑や意見はあるか。

<質疑・意見なし>

【松沢会長】

特にないようであるため、最後の「しごと」に進む。

【事務局 渡邊企画政策係長】

「しごと」については、「経済的な豊かさを育む」ということで、主に観光と農業が中心となるが、産業分野について記載している。重要指標として、目指すべき観光地のあり方として「観光振興により地域住民の暮らしが豊かになると思う人の割合」と、「観光産業での継続従事希望(宿泊事業者のやりがい)」という 2 つの主観的指標に加え、全産業を対象とした RESAS の地域経済循環率という客観的指標を設定している。

観光については、これまでの審議会でもお伝えしてきており、観光地経営会議で観光地経営ビジョンを策定しているため、4 つの基本目標の概要や施策、指標をそれぞれ抜粋している。

70 ページから農林業分野の事業として、地域計画や農業振興地域整備計画、中山間地等直接支払事業、担い手の確保として農業者の支援、農産品の価値向上と地産地消、森林整備や林業者の確保等を記載している。

76 ページ以降は、観光業や農林業以外も含めた産業について、創業支援や事業継承、幅広い業種における担い手の確保、地域通貨の活用等も含めて地域経済循環の促進等を掲げている。

【松沢会長】

各委員から意見や質問はあるか。

【丸山徹也委員】

観光分野については観光地経営ビジョンに倣って書かれているが、海外からのお客様もレンタカー利用者が増え、地域内の移動も「ドア to ドア」が増えている。八方尾根のゴンドラ架替等も踏まえ、今後はますます車両が増え渋滞等も生じる可能性がある。63 ページで二次交通の整備について言及しているが、地域の中を歩いてもらう仕組みを取り入れ、地域の賑わいを創出するような記載もあると良いと考える。

【事務局 渡邊企画政策係長】

観光課に確認するが、記載する方向で検討したい。

【津滝委員】

69 ページの「関係機関と連携して取り組むこと」に「責任と権限の委譲による観光地づくり計画の推進と支

援」とあるが、「責任と権限」は何を指して、誰に委譲することを意図しているか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

委譲先は DMO である観光局ということになるが、読む人がわかりやすい記載に修正する。

【西浦委員】

71 ページの「農業の担い手の確保」について、令和 2 年の時点で 158 人であった中核的農業従事者が、令和 17 年に 65 人に減少するという記載があるが、かなりの減少率だと感じる。新規就農者を増やすための取り組みはどのようなことをされているのか。

【事務局 渡邊企画政策係長】

新規就農者への就農給付金等はあるが、農業委員長からご説明いただけるとありがたい。

【松沢委員】

田んぼについては、大規模法人がある程度引き受けているため守られている状況である。園芸的な野菜栽培等を中心に、国の補助金を活用しながら新規就農者を支援している。

【松沢会長】

他に質疑や意見はあるか。

「しごと」に限らず、全体を通して何かあればご発言いただきたい。

【津滝委員】

全体的なページのフォーマットとして、行政が取り組むべきことについて触れられていない。「村民や事業者ができること」に含まれるのか、「関係機関と連携して取り組むこと」の主語が行政なのか。村民や事業者に押し付けているような受け取られ方をされないような書き方にすべきではないか。基本的には行政計画であるため、行政が主導するが協力してほしいという説明をした方がいいと思う。

【事務局 渡邊企画政策係長】

基本的には、中段の【主な事業】に記載していることが「行政が取り組むこと」であると考えている。また、「関係機関と連携して取り組むこと」には、行政も一緒に取り組むことを記載している。

「村民や事業者ができること」の部分は、押し付けている印象にならないよう、フォーマットの説明ページ等で意図を伝えていきたい。

【松沢会長】

他に質疑や意見はあるか。

<質疑・意見なし>

【松沢会長】

特に無いようであれば、以上で協議を終了する。

本日出された質問や意見を踏まえ、担当課とも確認して、必要に応じて修正いただきたい。

円滑な進行への協力に感謝申し上げ、進行を事務局に戻したい。

5. その他

【事務局 田中総務課長】

事務局から事務連絡をお伝えする。

(1) 答申について

【事務局 渡邊企画政策係長】

本日お聞かせいただいた意見について、担当課と協議の上で一部修正し、会長から村長に答申いただくこととなる。その後、前期基本計画(案)について、3月3日まで意見募集(パブリックコメント)を実施し、そこで出された意見も踏まえ、必要な修正を加えて3月の議会定例会で報告して計画の内容を確定したい。

本日以降、改めて内容をご確認いただき、何かお気づきの点があればパブリックコメント期間中でも構わないのでお聞かせいただきたい。

また、内容が確定次第印刷製本を行う。概要版については多くの方に読んでいただけるようなものにした。さらに、次年度以降は Web サイトや動画等も活用して、基本理念等について多くの村民や事業者を理解してもらえるよう周知に努めたい。

(2) 総合計画等評価委員会について

【事務局 渡邊企画政策係長】

総合計画は策定して終わりではなく、毎年進捗状況を評価する必要がある。庁内で内部評価を行った上で、計画審議会の中から委員を選出して「総合計画等評価委員会」を開催して外部評価を行うこととなっている。年度で役職が変わることもあるため、次年度に改めて委員を選出したいと思うが、あらかじめご了承ください。

【事務局 田中総務課長】

説明した事項も含めて、質問や意見があればお聴きするがいかか。

< 質疑・意見なし >

6. 閉会

【事務局 田中総務課長】

総合計画の策定に際し、4回の審議会及びワークショップやフォーラムなどを開催し、基本構想・基本計画の案をおまとめいただいた。

基本計画の「現状と課題」には、村民アンケートや審議会等が出された意見を盛り込み、本日出された意見については、「課題に対して目指す方向性」や「主な事業」に反映していきたい。

資料を読んでいただいたり、長時間の会議にご参加いただいたり、委員の皆様にはご負担をお掛けしてきた。村民の想いを拾い上げ、5年後、10年後の白馬村のありたい姿を思い描く良い計画ができたと思うので、しっかり村民や事業者伝えていきたい。

これまでの委員のご理解・ご協力に心から感謝申し上げ、第4回計画審議会を閉会する。